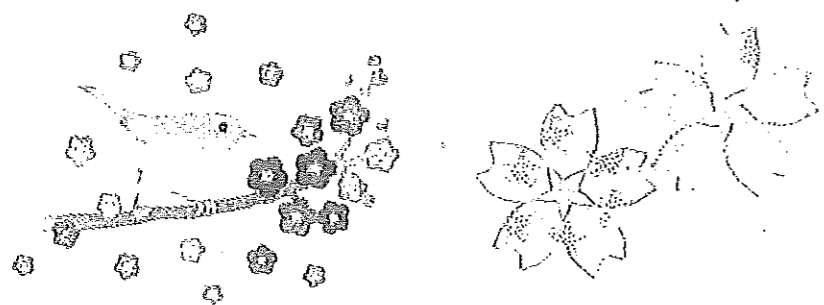


十三参り (成長祝う素敵な記念日)

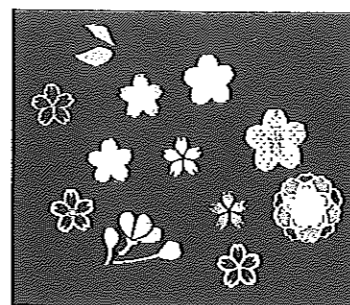
十三参りとは、数えて13歳になった男女児が氏神様やお寺に参拝し、お祓いを受けるものです。13歳という年齢は、自分の生まれ千支がちょうど一巡りしてもとの千支に戻る年であり、最初の厄年に当たります。また、その年齢の女の子はちょうど体が大人へと変わる頃であり、体調の変化も大きく、古より厄年の年齢とされていました。

十三参りは東京ではあまり一般化してはいないようですが、関西地方(特に京都)では七五三と共に大切なお子さんの風習として盛んに行われています。もともとは、京都嵐山の法輪寺にお参りし、厄を祓うと共に知恵と丈夫な身体を授かりに行く習わしで、その帰り道にある渡月橋を渡る際には、お授けいただいた知恵が元に戻って無くならないように、橋を渡り終えるまでけて後ろを振り返ってはいけないと伝えられています。



桜の柄について

和の世界では桜の柄の着物・帯・小物は一年中着ても大丈夫というのは本当ですか・・・？



基本的には桜は国花なので年間を通して着用いただけます。しかしながら季節に敏感な日本人は「枝・葉なしの桜ならOK」と言った方も少なくありません。TPOに応じて桜の柄の着物を活かしてみたいはいかがでしょうか？

J・T・C

会員募集

毎月2,000円からのお得な積立
成人式までに少しずつでも貯めておきませんか？
詳しくはスタッフにお尋ね下さい！